

## バス事業者ヒアリング調査 結果概要

### 1. 調査対象

芸陽バス株式会社、株式会社中国バス、鞆鉄道株式会社

### 2. 結果概要

#### ①近年の利用動向について

- ・市域全体としては利用が減少傾向にある。
- ・三原市は敬老優待制度があるため、利用者は他市町よりも多い。ただし、敬老優待の利用者は減少傾向にある。
- ・高齢者の利用が減っているのは、今まで利用されていた方が施設等に入られ乗らなくなり、また新規利用がないことが要因であろう。

#### ②利用者や地域住民からのご要望

- ・便数を増やしてほしい、という声が多い。
- ・もっと遅い便が欲しいという声がある。三原は、朝は割と便数は多いが、夜は少ない。通勤利用を増やすために実験的に増便することも考えられるが、乗務員が不足しており難しい。

#### ③乗務員不足の現状

- ・乗務員が不足しており、自転車操業の状態。三原地域は、今は何とかなっているが、平均 55 歳超えるなど高齢化しており、5 年後になると人数的にはかなり厳しいと思う。
- ・今は、利用状況の前に乗務員不足で便を減らすという状況にある。
- ・対策として、二種免許取得の補助などの制度を設けている。また、大卒、高卒なども対象に募集している。高卒者は直ぐに免許取得ができないため、それまでに事務や整備、切符販売など多様な職種を経験させて、何でもできる職員を育てている。

#### ④利用促進の方策など

- ・ルートについて、三原駅前から離れる経路と戻る経路が異なっている。利用者にとって分かり難くなっている可能性がある。
- ・三原市は IC カードの普及率が低く、利用すると便利なので、PR などが必要ではないか。ただし三原駅前などに対応窓口がないのがネックであろう。
- ・路線番号を、三原駅の乗り場番号に合わせて、整理して表記したい。数字での表記は、インバンド対策としても期待できる。(中国バスで先行実施)
- ・公共交通MAP を作成するならば、陸だけでなく、航路も一緒に掲載していただきたい。航路からのバス利用も期待できる。

#### ⑤防災面での対策など

- ・豪雨前に車両を安全な高台に逃がすため、平時より場所を決めて、訓練を行っている。三原市の場合水道局の高台になる。

- ・災害時はまずは職員等の安全確認を行い、その後に自治体等を協力できる場所協力することになる。状況によっては、路線復活に注力するのが良いか、臨時便が良いのか、その時の状況にならないと分からない。
- ・災害時は、道路状況などの情報共有と輸送の連携が重要であり、行政にお願いしたい。
- ・風速 20m を超える場合は、危険であるため運行をとり止めることを決めた。JRも計画運休をしており、これと一体的に運休することになるが、実施した際は苦情等がなかった。

#### ⑥バス情報標準化への対応など

- ・標準化に準じるデータを出せるように、バスロケ会社と協議、検討している。

#### ⑦サービス維持への課題

- ・人数的にバスが必要な幹線はバスが、地域内はタクシー事業者などによる小型車両、デマンドに切り替えていくのが現実的であろう。
- ・幹線であっても民間で担うのは限界があるので、公でインフラとして交通を整備していただく、ということにしないと維持が難しくなるのではないかと。
- ・今後高齢化が進むと、ドア・ツー・ドアのサービスでないと移動できない方も増えるであろう。
- ・本郷地区は、デマンド路線が頑張っており、利用も伸びている。自治会主導ということから、他の市町も注目していると聞いている。
- ・八幡地域は、デマンド路線の導入により、幹線とフィーダーのモデルのような形態になり、よい事例になったと考えている。

以 上